

課題名：DMO形成を見据えた三陸観光における情報の戦略的利活用に関する研究

研究代表者：ソフトウェア情報学部 教授 阿部昭博

研究メンバー：富澤浩樹、市川尚(ソフトウェア情報学部)、大志田憲(宮古短期大学部)  
宮井久男(名誉教授)

技術キーワード：三陸観光、日本版DMO、観光地経営、情報の利活用

## ▼研究の概要(背景・目標)

<背景> 広域での観光復興を目指す三陸において、地域観光経営の牽引役としてDMOに期待が寄せられている。

<目標> 被災地である三陸の地域特性を踏まえ、DMOにおける情報の戦略的利活用の方向性について明らかにする。

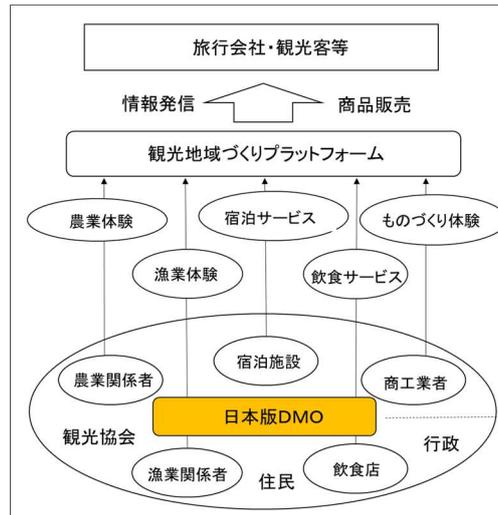
## ▼研究の内容(方法・経過)

1. 先進地域の事例調査を踏まえてDMOにおける情報/ICTの役割を整理した。
2. 復興過程にある三陸地域特有の情報利活用の現状について把握した。
3. DMO関係者を交えた研究会を3回開催し、情報の戦略的利活用の在り方を検討した。
4. 設立途上にある県内DMOの縦横の連携に関する調査・分析を継続的に行っている。

## ▼研究の成果(結論・考察)

三陸地域のDMOにおける情報の戦略的利活用の方向性について提言を試みた。

1. 広域マーケティングデータ基盤を確立する。
2. 新たな観光資源を融合した広域観光周遊に対する情報支援機能のワンストップ化を図る。
3. 二次交通情報等をオープンデータ化する。
4. デジタル化に対応できる観光マーケティング人材の育成を強化する。



日本版DMOの役割

1. 関係者の合意形成
2. マーケティングに基づく戦略策定
3. 観光関連事業と戦略の整合性のマネジメント、プロモーション
4. 観光地域づくりの一主体として実施する個別事業
  - ・着地型商品造成
  - ・外国人受入環境整備
  - ・ワンストップ窓口(情報発信・予約)
  - ・人材育成 など

日時	内容	参加者
第1回 2016.8.5	日本版DMOの基本概念、三陸観光復興の現状と課題について理解。	12名
第2回 2017.3.2	先進地域や三陸の事例調査を踏まえて、ビッグデータ、デジタルアーカイブ、SNS活用や人材育成の在り方について広く意見交換。	24名
第3回 2017.7.21	地域特性も踏まえた情報の戦略的利活用の在り方について考察し、これまでの取り組みを総括。	11名



研究会の開催状況

## ▼おわりに(まとめ・今後の展開)

1. 本研究では、DMOにおける情報・ICTの役割を整理し、復興途上にある三陸観光の地域特性も踏まえたうえで、DMOにおける戦略的利活用の方向性について提言を試みた。
2. DMO形成はまさに始まったばかりであり、今回の研究だけでは当初の研究課題に対して十分な結論を得るに至っていない。
3. 特にDMO間連携における情動的な課題については、引き続き調査・分析を進める予定である。